令和５年度 釧路定住自立圏に関する意見交換会
会議要旨

■日時　令和５年１１月３０日（木）午前１１時００分～１２時００分
■場所　釧路市役所　防災庁舎５階　災害対策本部室
■出席　別紙名簿のとおり

○：事務局　／　●：首長等

１　開会

２　挨拶（市長）

３　釧路定住自立圏共生ビジョンの策定状況について

○事務局から説明（資料１、資料２）
・質問意見なし

４　意見交換「地域産品の高付加価値化について」

○事務局から説明（資料３）

●蝦名釧路市長
・資料３の一番下に、釧路と帯広と函館の付加価値率を示しておりますが、北海道の平均は２７．４％、帯広市が３７．２％、釧路市は１７．４％になっており、釧路市では付加価値をうまくつけることが出来ていないということになっている。
・資料３の一番上の表が振興局別の付加価値率となっており、これを見ると釧路市よりも管内の町村の方が付加価値率が高いことが分かる。一番高かったのは弟子屈町で４７％を超えていた。
・全体で見ると数値の低さが目立つので、既存の流通ルートの活用のほか、地元の企業と協力して仕組みづくりをしていかなければならないと考えている。他町村とも協力しながら付加価値率の上昇を考えていきたい。

●小松釧路町長
・管内では酒類の開発が進んでいるので、チーズや海産物を組み合わせて、今までも取り組んでいるが、首都圏のレストランやホテルやデパート等でのフェアを継続する。特産品を生み出す管内の自然や地域の歴史のストーリーを組み合わせながら、視覚と味覚に訴えていくという手法に取り組むと、説得力が増すと考える。

・今はキャンプ場がかなり人気なので、公園などの野外スペースを活用し、カヌーなどのアクティビティも絡めながら、高付加価値化をすることが出来れば、現地に来る方々にとっては、良いものになるのではないか。釧路町ではキャンプ用品の鉄板を製造している企業や、木材加工の企業があるので、地元の特産品とマッチングさせてストーリー作りを進めるべき。

●石塚厚岸副町長

・地域産品の高付加価値化の取り組みとして、平成 31 年４月に『特産品等開発支援制度』を創設している。この制度は、事業者の事業意欲を喚起し、商品の高付加価値化、販路拡大を促進して魅力ある特産品の創出と地域経済の活性化を図ることを目的に、新たな特産品の開発及び商品化に取り組む事業者に対し、対象経費の３分の２、100 万円を上限として、補助金を交付するものである。

・この補助制度を創設した背景としては、堅展実業株式会社によるウイスキーの蒸溜所が完成し、今や高い人気を博している「厚岸ウイスキー」の本格出荷を控える中、「厚岸ウイスキー」に合う特産品や加工品の開発を促進することで、制度の創設に至った。

・補助金を活用した事業者は、これまでに累計 14 事業者で、23 の商品が開発され、ふるさと納税返礼品や、東京都荒川区の交流イベントにも持参している。

・厚岸町だけでなく、釧路管内が食糧基地として、地場産品に付加価値を付けていけるように考えていきたい。

●齊藤浜中町長

・７月に「浜中養殖うに」が地理的表示（ＧＩ）保護制度に登録され、ハーゲンダッツアイスクリームの原材料にもなっている高品質な生乳を生かした乳製品も数多くＰＲしている。

・昨今の厳しい情勢の中ではあるが、釧路管内からは他の地域に真似の出来ない高品質のものが製造され、首都圏を中心に北海道釧路の名前が少しずつ浸透してきているように感じる。

・釧路管内の市町村が一体となって商品を開発していく取組みは重要だが、それを物販イベントでＰＲし続けていくことが重要である。町ごとの特産物を集めてのイベントも必要だが、例えば海産物、乳製品、酒類といったようにジャンルに分けて出店することも面白いのではないか。

・首都圏と関西圏を比べたとき、それぞれの地域でよく売れる商品、売れない商品があるといったように、地域の特徴を掴みながら地域産品の認知度を高め、販路拡大を図っていくことも高付加価値化につながるのではないか。

・既存の地域産品をＰＲしていくとともに、管内で連携して販路拡大をしていくことで、釧路地域の観光客増大や関係人口の拡大につなげていければと思う。

●佐藤標茶町長

・標茶町の基幹産業は畜産中心であり、特に牛乳については雪印の工場があり、町の牛乳の半分が雪印に出荷され、もう半分はホクレンのクーラーステーションから、首都圏で北海道ブランドの牛乳として扱われている。

・町にはミルクプラントがないので、地元に作る方向で進めていたが、コロナ禍で一旦中断している。状況が改善すれば、ミルクプラントを作成し、高付加価値化に取り組んでいきたい。

・ふるさと納税にも力を入れており、新たな特産品の開発のための支援を昨年から始めている。年度内にエゾシカの加工場ができる予定で、そういったところを支援し、そこでの加工品をふるさと納税の返礼品として扱う準備を進めている。

・年に１回程度管内市町村を集めた特産品ＰＲを目的としたイベントを開催することも効果的ではないかと思う。首都圏などでは催しがあったかと思うが、管内で開催することで地域に引き込めるのではないか。開催地は各市町村持ち回りで行うなどして管内市町村それぞれが恩恵を受けることができる仕組みを作ることができればと思う。

●徳永弟子屈町長

・弟子屈町では、摩周和牛やじゃがいも、摩周そば、摩周メロン、牛乳といった農畜産物、赤ワインや赤スパークリング、そば焼酎、じゃがいも焼酎といった酒類などの特産品があり、ふるさと納税では地元加工場の海産物も提供している。

・今回の論点である圏域内での連携の実例として、弟子屈町では鶴居村とともにワイン特区認定を記念した鶴居村と弟子屈町のワインのセットを返礼品に加えている。また、検討例にもあったように、管内の酒類を集めたセットの販売や各市町村のふるさと納税の返礼品に設定し提供することで圏域内の連携が深まっていくと考える。

・地域おこし協力隊員でポールスター札幌前のイベントブースでくしろ物産展の開催や、可能かどうかわからないが、圏域内の旅行コースを設定したふるさと納税返礼品を用意するなど、広い視野で見た展開を検討する必要があると考える。

・阿寒摩周国立公園、釧路湿原国立公園、厚岸霧多布昆布森国定公園と自然豊かな環境がそろっています。これらのロケーションやアクティビティなどの強みも圏域内で連携して全国・全世界にアピールし、観光客や関係人口の拡大に繋げる手法を検討できればと考えている。

・釧路根室一帯で農業生産が２千億で、十勝が４千億になっている。十勝の４千億の中には、釧路根室の酪農の副産物である雄牛や交雑種を十勝で肥育している分が含まれるので、地元で肥育をして出していかなければならない。これに連なり、酪農で配合飼料を与えるのは３割ほどで、畜肉は８割が配合飼料を与えるので、バルク港を中心に物流も加速する。

・厚岸霧多布昆布森が国定公園になったので、阿寒摩周国立公園と同じように売り出していくべき。この大自然のほかに、一流の海産物、農産物の食があるので、地元に来てもらって食べてもらうことが重要である。
・十勝に対抗するわけではないが、釧路と根室を合わせると十勝以上のものがあるので、視野を広く持って進めていくことが重要である。

●大石鶴居村長
・ここ数年で多くの特産品が生み出され、鶴居村でもチーズやワイン、最近はエゾシカの活用など広まってきている。少しずつではあるが、高付加価値化の取組みは進んでいるのではないかと感じている。
・これからも作る努力継続する必要があり、酪農畜産の中心地域でもあるので、連携して商品を形にしていくことが重要である。
・物産の面では、販路拡大や関係人口の確保の点で重要であると考える。商品が出来上がるまでの背景も商品の付加価値を高めていく一つの手法であり、各地域の自然、歴史、文化等とどのような繋がりがありその商品が生まれたのか、生産者はどのような思いでその商品を開発したのかなど、ストーリー性をもって商品開発することが必要である。

●蝦名釧路市長
・物産展というと行商のイメージを持ってしまうが、本来は販路確保が目的であると考える。北海道のものは、既存の流通の中に組み込まれていることが多いので、付加価値率が低くなっているのではないか。

●佐藤標茶町長
・物産展に行ってもその時しか買うことが出来ないので、いつでも買えるようなアンテナショップみたいなものがあればよいと思う。
・札幌にあるショップに商品を出しても、一定程度売れないと次は出せなくなったり、東京に行くには売り上げ上位に入らないといけないなどルールが厳しいので、そのあたりを上手くクリアできる仕組みがあれば、消費者とつながることが出来る。そこから軌道に乗って進展すれば、釧路地域で協力して首都圏にお店を出すなどできればいいのではないか。

●徳永弟子屈町長
・１次産品にしてもスイーツにしても開発にしっかり取り組んでいく必要がある。釧路根室の和牛が共進会でチャンピオンを取る時代になっているので、それらを高価に売り出していくことも進めていくべき。道外の人は、北海道の食への憧れがあるので、訪れた人たちに付加価値を付けて売り出すなどできることは多い。

●小松釧路町長
・釧路に訪れる方に「釧路は昆布を食べられる店がない」と言われる。たしかにその通りで、扱ってる店は限られている。釧路の飲食店に地元の食材を活用してほしいが、一級品ばかりなので単価が高くて使うことが出来ない。品質が良いものは、都会に売り出されてしまう。

●徳永弟子屈町長
・品質が良いものは、釧路地域に来ないと食べることが出来ないとすればいいのではないか。

●齊藤浜中町長
・これまでは手を加えなくても商品が高品質なので問題なかったが、これからは付加価値を付けていく必要がある。浜中町でも地元の養殖うには、高くてなかなか食べることが出来ないが、都会では人気がある。

●蝦名釧路市長
・他地域で内水面漁業を行い、それを釧路根室に持ってきて養殖する流れがある。道東には淡水も海水もあるので、地元で完結することもできるのではないか。

●徳永弟子屈町長
・首長としても原料を作って売るだけという視点を変えていく必要がある。
・最近は気温も上がってきて農作物にも変化が起きており、ワイナリーが北海道に来るなどプラスのこともある。道東でもブドウを作れるようになったりするかもしれない。

●佐藤地域創生部長
・先日管内の移住担当者の研修会を行い、その中で地域おこし協力隊の方にお話をいただいたが、積極的な方が多いので、そういう方々と協力していきたい。
・振興局の取組みとして、管内のお酒マップの作成を進めるなど、酒類にも力を入れていきたいと考えている。検討中だが、焚火を見ながらお酒を飲むなどイベントもできればと考えている。

以上